

(ニュースリリース資料)

「第一回日本ロボット学会ロボット活用社会貢献賞の受賞者が決定」

社団法人日本ロボット学会ではこの度「ロボット活用社会貢献賞」を制定し、第一回の受賞者を以下の3名・団体に決定いたしました。本表彰制度は、「ロボット活用社会」の実現に向けて、ロボットを様々な形で社会に普及・浸透させ、社会の変革に大きく貢献した、あるいは貢献しうる活動や知見を顕彰し、もって上記将来像への接近を促進することを目的に、本年度より制定されたものです。なお、表彰式は平成21年9月16日(水)に横浜国立大学にて開催予定の日本ロボット学会学術講演会で行われます。

第一回日本ロボット学会ロボット活用社会貢献賞受賞者・団体および受賞理由

森 政弘氏 東京工業大学名誉教授

ロボットコンテストという日本発文化の創造と、それによる国際的な規模での青少年によるロボット制作活動の普及と創造性教育に対する貢献

青山 元氏 富士重工業株式会社 戦略本部クリーンロボット部 部長

サービスロボットの事業化およびビジネスモデルの確立

特定非営利活動法人 ロボカップ日本委員会

ロボカップを通じたロボットの啓蒙とロボット工学の発展に対する貢献

本件連絡先

倉爪 亮

九州大学大学院システム情報科学研究院

Tel. 092-802-3611

E-mail : kurazume@ait.kyushu-u.ac.jp

社団法人日本ロボット学会 第一回 ロボット活用社会貢献賞 受賞者・団体一覧

受賞者：森 政弘氏 東京工業大学名誉教授

タイトル：ロボットコンテストという日本発文化の創造と、それによる国際的な規模での青少年によるロボット制作活動の普及と創造性教育に対する貢献

受賞理由：ロボットコンテストを提唱しその黎明期より活動の指導ならびに発展に多大なる貢献を行った。ロボットコンテストは現在、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「NHK大学ロボコン」、「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト (ABU ロボコン)」、「ロボット創造国際競技大会」など国内のみならず、国際的な広がりを持つ活動に発展している。特にロボット工学の実践的教育を通じた青少年の新たな創造性教育分野を開拓し確立し、「モノ作りによる心の教育」へと発展させた。このようにロボットコンテストという日本発の新しい文化を育て上げ、世界に発信したことは特筆に値する。上記貢献は、ロボット活用社会の実現に寄与するところ極めて大であり、本件はロボット活用社会貢献賞授賞にふさわしいと判断する。

受賞者：青山 元氏 富士重工業株式会社 戦略本部クリーンロボット部 部長

タイトル：サービスロボットの事業化およびビジネスモデルの確立

受賞理由：環境事業と高齢化社会をとらえたロボットの事業化に成功し、特にビルの清掃というロボット活用の新分野を開拓した。清掃サービスの中で、人とロボットの最適な役割分担を明確化した上で、高齢者の要員不足という社会要請と、環境事業という観点からロボットを位置づけるサービスロボットのビジネスモデルを結び付けることに成功し、オフィス用掃除ロボットのビジネス領域を確立した。また次世代ロボット安全性確保ガイドライン制定への参画や、ロボットビジネス推進協議会におけるエレベータ自動乗降システムの検査方式の取りまとめなど、ロボット活用社会におけるサービスロボットの設計・運用指針の策定に尽力した。上記貢献は、ロボット活用社会の実現に寄与するところ極めて大であり、本件はロボット活用社会貢献賞授賞にふさわしいと判断する。

受賞者：特定非営利活動法人 ロボカップ日本委員会

タイトル：ロボカップを通じたロボットの啓蒙とロボット工学の発展に対する貢献

受賞理由：ロボカップサッカー、ロボカップレスキュー、ロボカップジュニアなど、多くの競技を通じて社会に対してロボットの啓蒙を大きく促進し、ロボットに対する具体的親近感を社会、特に若年層に浸透させるうえで大きな貢献をした。また明確かつ具体的な目標を示して研究開発を促進し、さらに研究成果を積極的に公開し議論する場を設けるなど、ロボット工学の発展に大きく寄与した。上記貢献は、ロボット活用社会の実現に寄与するところ極めて大であり、本件はロボット活用社会貢献賞授賞にふさわしいと判断する。

以上